

研究テーマ	〔Ⅱ 材料などのよさや可能性を豊かに感じ取る造形教育を考える〕 材料から発想し、自分の思いや考えを表す力を高める指導の工夫 ～第4学年「つないでいくと」の実践を通して～
-------	--

常陸太田市立金砂郷小学校 教諭 富永京子

1 研究テーマについて

学習指導要領の改訂に伴い図画工作科の目標に「感性を働かせながら」という文言が新たに加えられた。これは、表現及び鑑賞の活動において、児童の感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示されている。また、小学校学習指導要領解説図画工作科編によると、図画工作科で育成すべき「造形的な創造活動の基礎的な能力」には「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の二つがある。前者は「形や色、イメージなどを基に想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりするなどの能力」であり、後者は、「材料や用具を用いたり、表現方法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力である。」としている。これらのことから、誰もが認めるよい作品をつくる力を付けることよりも、児童が感性を働かせて自分の思いをもち、それを表現できる力を付けることを大切にしていこう必要があると考える。特に、表現A（1）造形遊びにおいては、材料や場所などから生まれる児童なりのイメージを基に、発想や構想を繰り返し、体全体を働かせながらつくる体験をすることが大切であると考えられる。

本研究では、グループテーマにもあるように「材料の良さや可能性を豊かに感じ取る」ことができれば、児童がつくりたいという思いをもち、その思いを形に表すことができるのではないかと考えた。そのためには、児童が興味をもつ魅力的な素材を主な材料として選定し、材料の性質を体感しながらつくりたいものが明確になるよう指導過程を工夫する必要があると考え、本テーマを設定した。

2 実践例

（1）題材名「つないでいくと」

（2）題材の目標

プラスチックダンボールを基に、つなぎ方を工夫して思いついたものをつくる。

（3）題材について

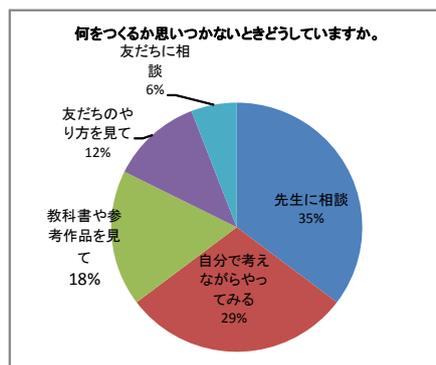
児童は、図工が好きで週に一度の図工の学習では一生懸命製作に取り組んでいる。しかし、製作中にどう表現したらよいかを質問する児童も多い。本題材前のアンケートによると、「何をつくるか思い付かないときどうしているか」という問いに対し、先生に相談して決めると答えた児童が6名（35%）で最も多く、自分で考えながらやってみると答えた児童が5名（29%）教科書や参考作品を見て決めると答えた児童が3名（18%）であった。教師を頼る傾向が強い原因としては2つ考えられる。一つは製作過程よりも結果を重視し、出来上がりを良くしたいという思いが強いことであり、もう一つは与えられた課題に対する基礎的な知識や経験が不足していることである。

従って、表現A（1）の造形遊びにおいて、材料と出会い材料を体感させるとともに製作過程を大切に活動すれば、児童がつくりたいという思いを強くもち、自分で表現の方法や内容を決定して製作できるのではないかと考える。

① 主な材料の選定について

本題材では、これまで児童があまり使ったことのない素材であるプラスチックダンボールを主な材料として製作する。プラスチックダンボールは、軽く丈夫なため高さや大きさのある造形が可能である。また色も豊富で色からイメージをもつことも可能である。ただし、はさみやカッターで切ることは小学校中学年の発達段階においては難しいため、あらかじめ大きさや形の異なるプラスチックダンボールを用意した。それらを自由に組み合わせて、いろいろなつな

資料1 児童の意識調査結果



ぎ方を見つけたり、プラスチックダンボールの性質を体全体を使って感じたりすることによりつくりたいもののイメージが明確になり工夫して表すことができると思う。

② 指導過程の工夫について

指導にあたっては、「出会う」「つくる」「振り返る」と3つの段階において児童の思いが少しずつ明確になるよう学習過程を工夫した。「出会う」段階においては、豊富な材料を用意し、体育館で活動することで、大きさのある造形を可能にする。ここでは、材料に自由に触れてつなぎ方・組み合わせ方を自由に試したり見つけたりすることができるようにする。「つくる」段階の前半は、個人で自由に発想し形にしていく。イメージが明確にならない児童とは対話をしながらひとりひとりの思いを受け止め、組み合わせや見立て方など、次の製作に結びつくような声かけをしていく。後半は、グループや学級全体での共同製作とし、自分の作品を友人の作品とつなげていく。友人の作品や作り方からさらに発想を広げられるようにする。「振り返る」段階においては材料や場所、友人との関わりの中で作品がどのように変化していったかを伝え、取り組みの良さを認めあえるようにする。

(4) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・プラスチックダンボールなどの材料を組み合わせたたり、つないだりする活動に取り組もうとしている。	・プラスチックダンボールを組み合わせたたりつないだりしながら新しい形を思い付いたりその形から考えたりしている。	・手などを働かせて用具を使い、材料を組み合わせたたりつないだりしている。	・友人の組み合わせ方やつなぎ方に目を向け、よいと思った方法を自分の製作に取り入れている。

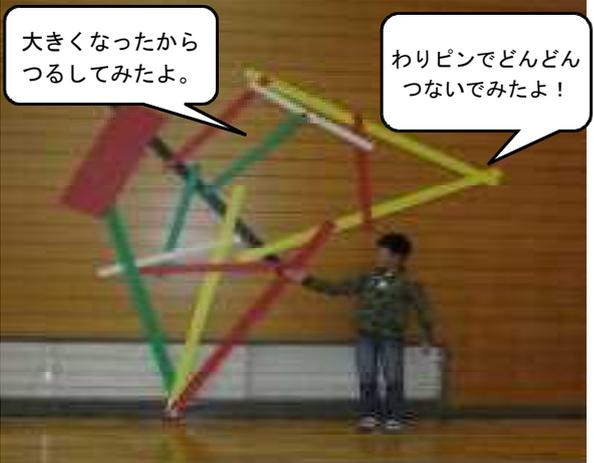
(5) 指導と評価の計画 (6時間取扱い) ※○印は時数, ◎は本時

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
出会う	第1次 ① プラダンで遊ぼう ・プラスチックダンボールを触ったり、動かしたりして遊ぶ。	・プラスチックダンボールをまるめたり、重ねたりして様々な組み合わせ方を考えたり、方向によって折れやすいなどの性質に気付いたりすることができる。 【意】【観察, 記録写真, 学習カード】
	◎ 本時 プラダンをつなげよう ・プラスチックダンボールをつないでいき、思い付いた形をつくる。	・プラスチックダンボールを組み合わせたたりつないだりしながら、思い付いた形をつくろうとしている。 【想】【観察, 学習カード, 対話, 作品】
つくる	第2次 ① ② ③ プラダンのまちをつくろう ・作った造形物を建物や道路, 人などに見立て, 友人の作品とつなげていく。	・作った造形物を建物や道路, 人などに見立てている。【想】【作品, 学習カード】 ・プラスチックダンボールや場所の特性を生かしてつないでいる。【技】【作品, 対話】 ・友人の組み合わせ方やつなぎ方に目を向け, よいと思った方法を自分の製作に取り入れている。【鑑】【観察, 学習カード】
	第3次 ① プラダンのまちを発表しよう ・つくった作品を発表し合う。	・自分の考えや思いを表現しようとしている。【意】【発言, 学習カード】 ・友人の発想の良さ気づいている。【鑑】【観察, 学習カード】
	振り返る	

(6) 本時について

- ①目標 ・プラスチックダンボールを組み合わせたたりつないだりしながら、思い付いた形をつくろうとしている。(発想や構想の能力)
- ②準備 児童：はさみ, 筆記用具, 軍手, セロテープ
教師：プラスチックダンボール, スズランテープ, ガムテープ, わりピン
ビニルテープ, カッター, カッターマット, きり

③展開

学習活動・内容	教師の支援（・），評価（ <u>評</u> ）
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">プラダンをつなげよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・材料をたくさん使っているいろいろなぎ方を見つけよう。 <p>2 いろいろなつなぎ方を考え発表する。</p> <p>3 プラスチックダンボールを，工夫してつないでいき大きな作品をつくる。</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・体全体を使って大きな作品を作れるよう，体育館で活動する。 ・しなったり，折れやすい向きがあるなどプラスチックダンボールの性質について確認する。 ・ガムテープやわりピンなどを使って材料をどのようにつなぎたいかを発表させて，活動の見通しがもてるようにする。 ・カッターやきりは所定の位置で作業を行うなど，材料や用具の安全な使い方について確認する。 ・つなぎ方が思いつかず作業が進まない児童には，どんなイメージで作っているかを質問するなどして児童の表現する物のイメージが明確になるようにする。 ・細かな作業を続ける児童には，本時の課題を確認し，材料をつないで作品を大きくするよう声をかける。 ・作品が大きくなってきた児童には壊れないように，補強したりつるしたりするよう助言する。 ・製作の途中で友人の作品を見るよう声をかけ，良いと思った方法をどんどん取り入れて，表現の幅を広げるようにする。 ・前半は，個人の製作を基本とし材料から思い付く形をつくるよう声をかける。後半は，友達と協力しても良いことを伝え，大きさや空間を生かした表現ができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><u>想</u> プラスチックダンボールを組み合わせた りつないだりしながら，思いついた形をつ くろうとしている。</p> </div> <p style="text-align: right;">（観察，学習カード，作品）</p>
<p>4 できあがった作品を鑑賞し合う。</p>  <p>5 次時の学習予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックダンボールの特性を生かし，工夫している作品を紹介する。 ・友人のつなぎ方の工夫に気付けるよう説明を付け加える。 ・製作の途中経過や児童が完成と感じたところで写真を撮っておき，振り返りの時間に鑑賞できるようにしておく。 ・本時で作ったものをもとにして，みんなで1つのまちをつくることを伝え，次の学習への意欲を高める。

3 成果と課題

(1) 成果

① 材料の選定について

- ・用意した材料が大きく豊富であったため、大きな造形が可能になった。中には、自分の身長よりも大きな作品をつかってその中に入ったり、つくった作品を身に付けたりする姿が見られるなど、体全体を使って造形遊びを楽しむことができた。
- ・児童がつないだ主な方法は、「ガムテープで貼る」「わりピンでとめる」の2通りであったが、同じ細長い素材でも板を筒にしたり、道路に見立てたりするなど多様な表現をすることができた。

これらのことから、児童たちは魅力的な材料に出会い、その材料に触れ合う活動をすれば、材料から発想し思いや考えを工夫して形に表すことができると考える。

② 指導過程の工夫について

- ・製作が進むにつれてつくるもののイメージが明確になっていった。具体的なイメージが浮かぶと、児童は生き生きと取り組んだ。細い板2枚をわりピンで留めた材料を動かしている友人を見てはさみを連想してつくるなど、友人の活動の様子からイメージを膨らませることができた。「これ目に見えるね」という教師の声かけから、口や鼻をつかって顔にすることを思いつくなど、対話によってつくりたいものが明確になった様子も見られた。
- ・個での製作では大きな作品を作れず広い空間を生かすきれなかった児童もいたが、グループでの製作ではいろいろなアイデアが浮かび、作品が次第に大きくなっていった。グループでつくることにより「自分の作品」という意識が低くなってしまわないかと心配したが、共同製作の一部であっても自分の作品に自信もっている姿が見られた。

これらのことから、児童はつくりたいものが明確になれば、自分で試行錯誤してその思いを形に表すことができ、満足感や達成感を味わうことができると考える。

(2) 課題

① 発想を引き出す言葉かけや場の工夫

大きな材料での造形遊びは初めてであったので、活動のイメージが膨らむような言葉かけができるとよかった。また、用具の使い方等は必要な場所に掲示するなどして、活動の場をさらに工夫するとよかった。

② 製作過程の記録

児童の思いの変容を把握するために学習カードを用意したが、製作に夢中になり記入する時間を十分確保できなかった。活動の合間に短い言葉や図で記録する習慣をつけておくとよかった。

資料2 児童の様子



板をつないで2階建ての家にする児童



わりピンを使って、ドアをつくる児童

資料3 児童の感想

- ・最初はふつうにテープを使ってつなげようと思ったけど、曲げてみたら虹みたいだったから虹の道路を作った。遊園地と家を虹の道路でつないだ。
- ・はじめにこわれたボールがあって思いついてかいぞく船をつくりました。かいぞく船には大砲をつけたり波をつけたりしました。

4 参考文献

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月